



へぎ板職人の技に感動



剥ぎの技術と製品の芸術性に感動して
ました。
木曾で生産されている木材が、文化財
等の維持に重要な役割と技術の継承に役
立っていることに誇りを感じるもので
す。
参加者からのアンケートには「木曾の
自然の豊かさを子ども達に伝えると共
に、社会科や総合学習に生かしていきた
い。」との意見が寄せられました。

一日目のシンポジウムは、長野市若里
市民文化ホールにおいて、阿部長野県知
事が長野県の森林の状況や整備状況、森
林税などについての時事講演の後、長年
ふるさとの森づくりを進めている宮脇昭
氏が、「人類の未来とふるさとの森づく
り」をテーマに四十年前からふるさとの

「指導普及課」八月十四日(日)から
十五日(月)にかけて、長野オリンピック
の森検証シンポジウムと震災復興祈念
植樹祭が長野ふるさとの森づくり実行委
員会(NPO法人国際ふるさとの森づく
り協会、中部森林管理局ほか)の主催に
より開催されました。

**長野オリンピックの
森検証シンポジウムと
震災復興祈念植樹祭**



屋根葺き材のこけら製作



一日目のシンポジウムの様子 パネラーとして城土局長も参加



森づくりを進めてきた経験と実績、東日
本大震災の復興における緑の防波堤構想
などについて基調講演がありました。
パネルディスカッションでは、斗ヶ沢
毎日新聞社水と緑の地球環境本部長が
コーディネーターとなり、宮脇横浜国立
大学名誉教授、阿部長野県知事、塚田前
長野市長、柳沢さりえ作家、城土局長の
五名により、それぞれの立場から森づく
りに対する構想や意見を交換しました。
なお、このシンポジウムには、お盆の
十四日の日曜日であるにもかかわらず、

この湿原は南信地方北部の伊那市と富
士見町の境に位置し、サギスゲやモウセ
ンゴケなど高層湿原に特徴的な植物やオ
キナスギコケなどの希少なコケが自生し
ていることから、多くの市民が訪れてい
ます。
作業開始に当たり、竹内署長から大阿

「南信署」長野県南箕輪村に所在する上
伊那農業高等学校2年生による大阿原湿
原の遊歩道整備が八月三日に実施されま
した。

各地からのたより

貴重な自然を守ろう！
高校生と湿原の木道整備

百七十名を超える参加者がありました。
二日目は、長野オリンピック当時混
植・密植型植樹植林(宮脇方式)された
森の姿をエムウエーブ、地附山、飯綱ス
キー場などで確認した後、震災復興を祈
念して飯綱高原大座法師池の区有林内で
ブナ、ミズナラなどの広葉樹一千本を植
樹し終了しました。



ブナ、ミズナラを
植樹する参加者

原湿原の貴重な自然や本活動の歴史について説明の後、森林ふれあい係長から高層湿原の形成過程や特徴などを説明しました。特に高層湿原の水が酸性を示すという特徴については、実際に pH 指示薬を使い湿原の水と水道水を調べさせることにより pH の違いを実体験してもらいました。

作業は生徒三十八名を七班に分け、それぞれに当職員が指導に当たるといって、老朽化した木道の板・枕木、グリーンロープの杭の付け替えや、露出した樹木の根を保護する目的で歩道にウッドチップの敷設を行いました。

時折小雨が降る悪条件の中、生徒達は慣れない手つきで、板の取り外し・付け替え等に苦勞をしていましたが、指導者の助言をよく聞き、真剣な表情で作業に取り組んでいました。また、作業中でも観光で来た一般の人達に元氣よく挨拶をしたり、道を開ける様子も見られ、一般の人の中には高校生に「綺麗にしてくれ



大阿原湿原の自然について
高校生に語る竹内署長



職員の指導の下、木道の整備を実施

てありがとう」と声をかけていく人もいました。

二時間半ほどで作業は終了し、真新しく修理された木道に達成感を感じている生徒も多く見受けられ、作業終了後、生徒の代表者から「自然を守るといって貴重な体験ができて良かった」との感想が述べられました。

現地は、ニホンジカやイノシシのような野生動物による踏圧や食害が目立つようになってきています。今後、貴重な湿性遷移や現存する植物を保護するためにも、野生動物を対象にした対策も必要と考えています。

人のうごき

中部森林管理局人事

八月一日付

▽森林整備部治山課保安林係長（東信署総務課総務係長）

吉越 秀一
▽東信森林管理署総務課総務係長（森林総合研修所経営研修課実施係長）
山田 雅子

▽岐阜森林管理署総務課総務係長（東濃署総務課総務係長）
村井 千秋
▽職務復帰（育児休業終了）東濃森林管理署総務課総務係長（東濃署業務第二課付）
伊藤 章代

シリーズ 現場最前線

高山植物の保護・啓発活動も実施

「南信森林管理署駒ヶ根森林事務所」

駒ヶ根森林事務所は、天竜川西側の黒川、赤穂、中田切、飯島、上片桐、大島山国有林、東側に四徳国有林を管轄区域とし、西側には将棋頭（二七三〇㍎）を北端とし駒ヶ岳（二九五六㍎）、空木岳（二八六四㍎）を経て本高森山（一八九〇㍎）が連なり、全国的には中央アルプス駒ヶ岳として有名であり、駒ヶ岳、空木岳は日本百名山に数えられ、多くの登山客に愛されており。

当所は森林官と基幹作業職員一名で、境界巡検などの森林保全管理業務を中心に事業を実行しており、夏山の最盛期にはグリーンサポータースタッフ等と連携し

ながら、高山植物の保護・啓発活動も実施しています。

現場作業にあたっては、まず、一週間の行動計画を次長に報告し、毎日の行動計画は総務課長に、その都度きめ細かに報告するとともに、毎朝、森林官とその日の天候や作業内容に応じた段取りや安全作業の確認等のミーティングを行い基本動作の遵守、不安全行動の排除等を念頭に必要な作業を正しい手順で実行するように心がけています。

これから、保育間伐活用型等事業の最盛期を迎えますが、南信森林管理署として地域の皆様に、目に見える形で森林整備をはじめとした業務が理解されるよう、更に努力していきたいと考えています。



高植協との合同パトロール風景



蘭松笠・南木曽ろくろ細工

長野県木曾谷の南部に位置する木曾郡南木曽町と下伊那郡阿智村を結ぶ国道二五六号線沿いに伝統技術を受け継ぐ里(蘭松笠・南木曽ろくろ細工)があります。



伝統技術を継承する松笠

蘭松笠は、寛文二年(一六六二年)飛

驛の落辺から来た人によって伝えられ、耕地の少ない蘭では瞬く間に主要産業になりました。



南木曽ろくろ細工

松笠は、松の節の少ない上質な部分を薄く削って細長い短冊状にしたもので編まれており、すぐれた伝統技法により、美しい編み目と通風性・防水性を兼ね備え、木曾の自然と素朴な生活風土が巧みに活かされ、昭和五十七年には「長野県伝統工芸品」に指定されました。

また、ろくろ細工は、厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削り出す伝統技術です。

南木曽ろくろ細工の起源は明らかではありませんが、宝永元年(一七〇四年)から享保十三年(一七二八年)の間において、木地師が運上金を納め、盆、椀などの木地荷物を名古屋、大阪方面へ輸出していたことが古文書に記されており、江戸時代中期には白木の挽き物がこの地方

で生産されていたことが窺われます。

南木曽ろくろ細工は、「伝統的工芸品産業振興に関する法律」に基づき、伝統的工芸品の指定要件を満たし、昭和五十五年に国の伝統的工芸品に指定されました。

この国道二五六号線沿いは木工業が盛んな地から「工芸街道」とも言われ、南蘭国有林は工芸街道の背景林となっています。

木地師の里から分かれて、飯田市に向かう大平街道には旧東山道の大平宿があり、当時は妻籠宿から飯田方面へ往来が盛んだったことが窺われます。

現在は、主要地方道飯田南木曽線になっており、大平峠周辺の国有林は、自然探勝、憩いの場として、レクリエーションの森(大平峠風致探勝林六〇ヶヶ)



「木地師の里」と背景の南蘭国有林



南木曽町と飯田市の境となる大平峠

に指定され、多くの人達が訪れています。

◆アクセス

(所在地)

長野県木曾郡南木曽町吾妻

○車でお越しの場合

中央自動車道 中津川ICから南木曽町方面へ国道一九号線を北へ三十分、三十五分

長野自動車道 塩尻ICから南木曽町方面へ国道一九号線を南へ二時間

○公共交通機関をご利用の場合

JR中央西線南木曽駅下車バスまたはタクシード十五分～二十分
国道一九号線から妻籠宿を経由して五分で「松笠の家」、十五分程で「木地師の里」に到着です。